

## 創業期から100周年を見据える



宇佐美社長                      堤社長                      宇佐美会長                      山崎会長

宇佐美 芳衛  
山 崎 康友  
宇佐美 衛  
堤 健吉

(司会 石山 幸男)

宇佐美造林株式会社会長  
宗教法人東京湾観音協会会長  
株式会社山康商店会長  
宇佐美造林株式会社社長  
宇佐美ビル株式会社社長  
丸宇木材市売株式会社社長

出席者

(敬称略)

## 宇佐美会長、山崎社長でスタート

司会 創立六〇周年に当たって丸宇木材市売の草創期から今日まで、そして未来に向けてお話を伺いたい。まず、丸宇木材市売の堤社長からお願いします。

堤社長 宇佐美さん、山崎さん、お忙しいところありがとうございます。

六〇周年の記念誌は、「感謝の心はあらゆる営みの原点であるし、初心でもある」ということだから作ろうと思いましたが、「また」折り返し、節目に原点に戻ろう。苦しみ打ちひしがれた世は」と言われてきました。良樹は細根、根深ければ、葉茂し。葉は広く、深く、細かく根を張っていないければ大樹には育ちません。何事も始めるには根が先で葉は後ということ。これは、当社創業会長・創業社長の宇佐美・山崎両氏とも、同じような考え方でした。

宇佐美政衛翁が山崎常作翁を抜擢して、それに見事に応えた山崎常作翁。お互いを認め合えば自然と「ありがとう」があります」の言葉が出てくる、そして向上心を持って向上の一途をたどるお手本でもあるお二人だと常日頃考えています。また、駿河屋の教えについては、特に驍が厳しかったと伺っています。宇佐美政衛翁から山崎常作翁に、そこから私たち丸宇の社員に伝え、教えていただいたことがあります。私が山崎氏に教わったことは、「この世の中、常に製品や物の価値観はめまぐるしく変わっていく。ただし、お客さんに喜んでいただきたいという私たちの心は、いつもどんな時代でも変わらない」ということです。お客さんに喜んでいただくことが大切なのだ、という教えがあったわけです。

宇佐美氏もそうでしたが山崎氏も、私たち社員が自由に楽しく仕事ができるようにと指導して下さいました。会社に依存しないで自分の成長のために自ら考え行動し、自分の言葉で語って責任を取れる人になるということを目指して来ました。とりわけ、会社の業績は管理職によって決まることをよく知っていたので、その能力を高めるための要望は多かったですね。例えば、ウチの社長、上司は何もわかっていないという愚痴に対しては、どうすれば社長や上司にわかってもらえるか、わからせる努力をしたのかどうか。マネジメントとは上を動かして下を動かすもの、組織を動かす力が大事と常に言われておりました。